

歴史資料に見る宮崎の
災害・防災
No. 2

明治期の激甚災害 その2 明治6年
延岡大洪水・被害調査の最前線

明治6年9月、10月と宮崎を襲った暴風雨は県内に甚大な被害をもたらしました。なかでも、大瀬川、五ヶ瀬川、北川と大きな河川をもつ延岡地方の被害は大きく、そのことを記す文書が残されています。9月暴風雨の報告には「9月3日早朝より降雨。夜中降り続き、翌日には大瀬川の水があふれ、市中の低いところでは8～9尺程(2.5メートル前後)水が上がった。(中略) 市中の橋も全て流されたが、怪我人はない模様」と記されています。

その復旧も十分でないまま、10月初旬に延岡地方は二度目の暴風雨に襲われました。10月5日付で延岡支庁がまとめた届書案文には、近年まれにみる大洪水で難渋しているようすが詳細に記されています【資料1】。以下はその概要です。



【資料1】延岡支庁からの届書案文(部分) (104389「案文留(延岡支庁)」)

① 10月1日夕刻より降り出した雨は、2日にはしきりに強くなり、大瀬川、五ヶ瀬川とも水位が上がり、3日の午前2、3時には川水はあふれ出し、柳沢町のごときは2階まで水が上がった所も少なくないと聞いている。

- ② このたびは、文化子年^{ねどし}の出水(※記録不明)時より2尺(約60センチ)も上回っている。
- ③ 夜中の急な出水であったため上を下へと混乱し、家財等流され皆々難波の様様。
- ④ 大木が根こそぎ流れ来るのを見ても、上流地域の被害の程が心配される。
- ⑤ とりわけ北川筋の出水が甚だしく、水位は3丈(約9メートル)も上がっているが、上流の川内名^{かわちみょう}、長井などの遠村は通路が遮断されていて状況が分からない。【資料2】参照

このような中で、北川筋川島村の被害状況を届けるために、直ぐさま延岡支庁に出頭した副戸長がいました。報告書は、副戸長の言葉をもとに、川島村の概況を更に次のように記しています。

- ⑥ 田地は砂石に埋まり、畑地は流されて一面白浜と化した。
- ⑦ 人馬溺死、流失家屋など詳細な調べはついていないが、辛うじて難を逃れた者も、食料等の過半を失い至極難渋^{しごく}している。(後略)

この時期の県内は「大区小区制」により行政区画が定められ、番号を振った12の大区と76の小区に分けられ、大区には区長・副区長が、小区には戸長・副戸長が配されていました。報告書の川島村は、第5大区7小区になります。小区に置かれた戸長は、旧来の庄屋や名主の職務を引き継いだ存在で、それを助ける副戸長とともに、住民の総代人としての立場と末端の行政官の立場を合わせもっていました。

報告を聞いた延岡支庁では、北川筋の村々の実地検査のために、すぐに副区長の派遣を決めました。心配されるのは家屋を流された者をはじめ、被害に遭った人々の早急の手当です。そのため、当面の資金として金20円を出張の副区長に持たせ、「御規則」に準じ救助するよう命じています。「御規則」というのは、明治4年10月に大蔵省より出された「窮^{きゆう}

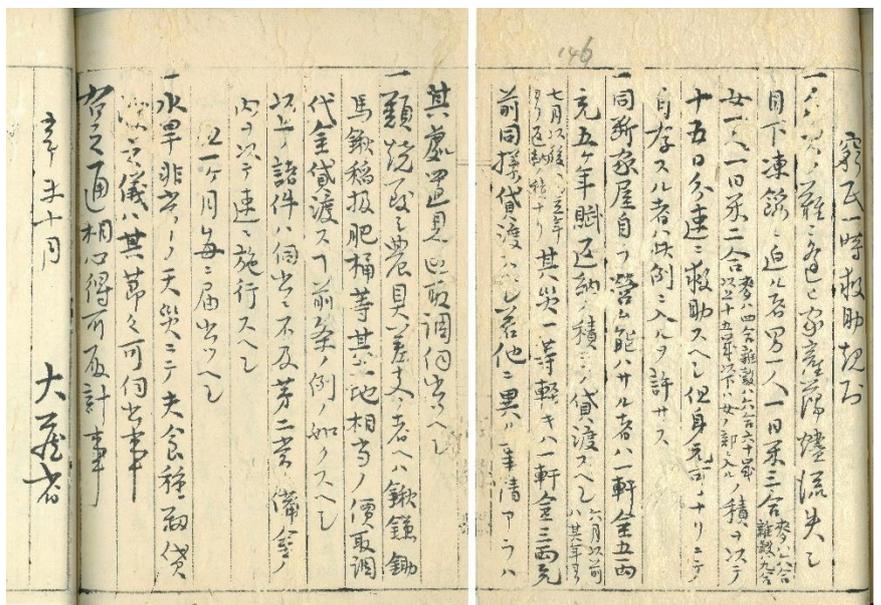


【資料2】陸地測量部 明治36年
5万分の1地形図 延岡

「^{みん}民一時救助規則」のことで【資料3】。被災者への食料の支給や家屋損害に対する貸付金について、次のように定めています。

- ① 食料支給
 - ・男 1日米3合（麦なら6合、雑穀なら9合）
 - ・女 1日米2合（麦なら4合、雑穀なら6合）
 - ・60歳以上、15歳以下は女の部に入る。
 - ・その割合で15日分支給する。
- ② 家屋損害
 - ・1軒につき金5両貸渡し。これは5年賦で返済する。
 - ・一等軽い災害には1軒につき金3両貸渡し。これも5年賦で返済する。
 - ・諸事情がある者は、見回り取調べに伺い出ること。

明治4年5月、1両は1円と定められましたが、しばらくは両と円の両方が使われていました。当時の県内米相場は、1石（1,000合=150キグラム）が3円50銭でしたから、20円というのはかなりの額でした。参事の福山健偉は、10月18日付で県下の正副区長宛に、この規則に照らして救助米、拝借米を支給するので被災者を報告するよう命じています。



【資料3】10月18日付 正副区長宛通牒に添付された「窮民一時救助規則」（104363「本庁より諸布達」）

被害の実態調査と対応の最前線に立つのは、住民のそば近くにいる戸長や区長です。このあと、被災者報告をはじめ田畑損耗（収穫減少）の検査依頼などが、次々と提出されています。

大区小区制は、数度にわたる管轄区域の変遷を経て、明治12年の「郡区町村編制法」施行に伴い行政区画としての郡町村が設置されるまで続きました。

明治の初めに置かれた戸長、区長は、近代化に伴う新たな戸籍の編製や地租改正に係る事務など、住民との接点にあって重要な役割を担っていました。